

2023年5月11日

各位

会社名：株式会社 J B イレブン
代表者名：代表取締役社長 新美 司
(コード番号：3066 名証メイン市場)
問合せ先：執行役員 黒田 博司
電話番号：052-629-1100

中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社グループは、2026年3月期を最終年度とする3か年の中期経営計画を策定しましたので、お知らせします。なお、当グループは、事業環境の変化に迅速に対応するため、一年毎に計画を見直し、ローリングしていくことを方針としています。

当社グループは、2021年12月の創業50周年を契機として、企業理念へ手を加え「おいしさと楽しさを創造し、笑顔あふれる社会づくりに貢献すると同時に、全社員・パートナーの物心両面の幸せを追求する」へと改訂し、将来へ向けた事業展開を進めています。

これは、おいしさと楽しさに関する事業分野において、顧客満足を通じて地域貢献を果たし、収益向上と納税正義により社会貢献を果たすこと、また、文字通り、働く社員・パートナー（パート・アルバイトのこと。）の物心両面の幸せを追求するというのが、当社グループ経営の根幹であるという考えを示したものです。

この企業理念に基づき、事業領域を「ニッポンの美味しさ・楽しさを提供する企業グループ」へと拡大し、各事業の強化を通じ、経営全般の収益性、成長性、安全性を高め、企業価値の拡大に向け全力を傾注していきます。

(1) 対処すべき課題と経営戦略

今後の経済動向は、世界の対立構造が鮮明となる中、インフレの継続、金融不安、中国経済の減速が強まる一方、国内では、賃上げの波及や、本格的インバウンド消費の回復も始まり、サービス消費等の回復が期待されます。

外食産業においては、コロナ禍で変化を来した顧客の生活様式や、インフレに対する生活防衛意識により、新たな局面へと転化していくものと予測されます。

このような状況下で当社グループは、コロナ禍で傷んだ財務および事業の立て直しを急ぎ、「社員・パートナーの意識の高さにおいて外食産業日本一（まずは東海エリア No.1）」を目標として掲げ、内部体制の充実を伴った着実な成長を基本とし、中長期的観点で収益力の向上、規模の拡大、および財務体質の改善を図るべく、以下、経営戦略8項目を重点推進します。

1. フィロソフィを共有する組織パワーが、規模拡大の基盤であることを徹底する。
2. 全ての部署において、パートナーの持つ能力と可能性を最大限に発揮させる。
3. 事業領域の拡大および連結事業構造の改革を軌道に乗せ、利益体質の転換を図る。
4. ラーメン・中華事業での差別化を推進し、グループ全体の成長性・収益性を担保する。
5. 川上の新規取引先開拓を重点課題とし、利益率を拡大する。
6. 権限委譲を進め、グループ全社黒字化、次世代経営人材の育成を図る。
7. 積極的なDXを躊躇することなく推進し、業務効率の改革・顧客体験の進化を図る。
8. 労働環境の積極的な整備を進めつつ、収益の拡大に見合った分配の拡大を図る。

(2) 数値目標 (連結)

	2023年3月期実績	2024年3月期予想	2025年3月期計画	2026年3月期計画
売上高	7,117百万円	7,923百万円	9,411百万円	11,259百万円
経常利益	▲290百万円	71百万円	211百万円	427百万円
経常利益率	▲4.1%	0.9%	2.2%	3.8%

当社グループは、健全な成長と経営の安定性を確保するため、経営指標とその目標値として、①外食事業の直営店1店舗当たりの平均月商700万円、②連結売上高対経常利益率4.0%、③連結ネットDEレシオ1.0を採用しています。現況は、コロナ禍の影響により、これら目標値のうち①および②は、足下の実績と目標値との間に乖離が生じていますが、これら目標値を堅持し、その実現を目指しています。

なお、実際の業績は、当社グループを取り巻く諸環境の変化や、当社グループが目指す事業領域の拡大等々、様々な要因により、本数値目標と異なる結果となる可能性があります。

以上